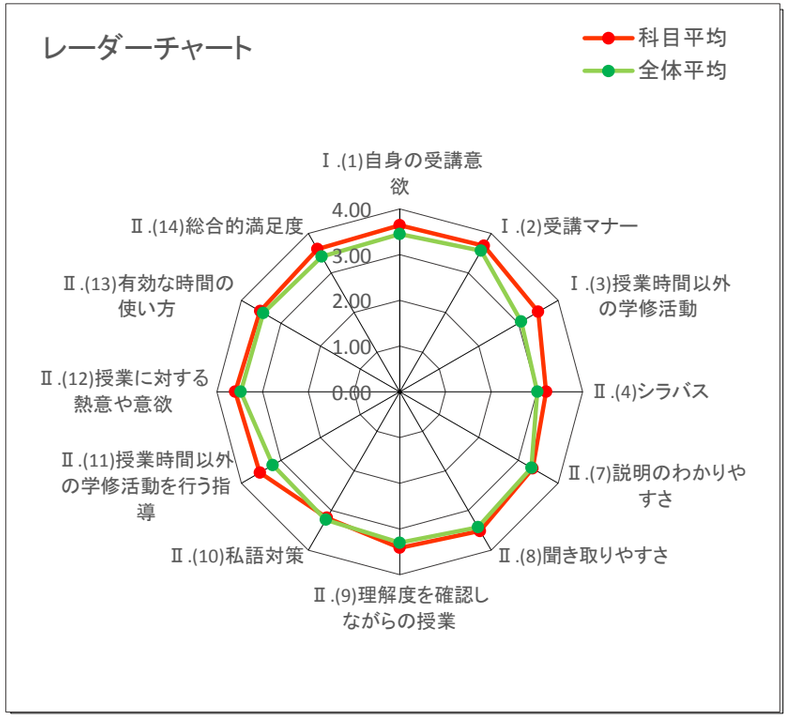
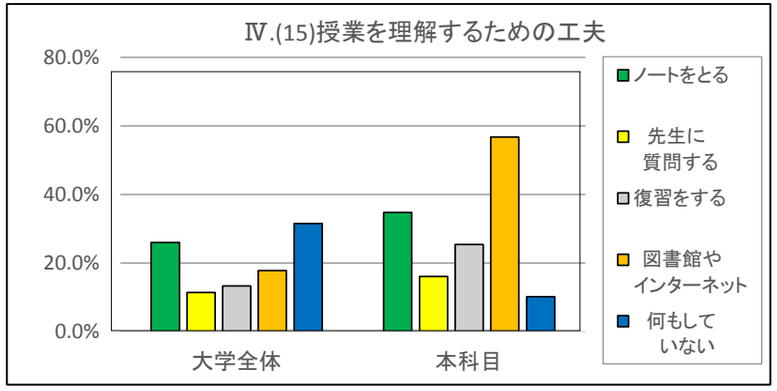



| | 設問No. | 科目平均 | 全体平均 |
|---|---|---|---|
| 自身の受講姿勢 | Ⅰ.(1) | 3.64 | 3.45 |
| | Ⅰ.(2) | 3.69 | 3.56 |
| | Ⅰ.(3) | 3.50 | 3.07 |
| 講義内容・方法 | Ⅱ.(4) | 3.20 | 3.01 |
| | Ⅱ.(5) | | |
| | Ⅱ.(6) | | |
| | Ⅱ.(7) | 3.36 | 3.33 |
| | Ⅱ.(8) | 3.52 | 3.42 |
| | Ⅱ.(9) | 3.42 | 3.30 |
| | Ⅱ.(10) | 3.19 | 3.23 |
| | Ⅱ.(11) | 3.53 | 3.21 |
| | Ⅱ.(12) | 3.60 | 3.48 |
| | Ⅱ.(13) | 3.53 | 3.45 |
| 満足度 | Ⅱ.(14) | 3.60 | 3.41 |

| | |
|---|---|
| 授業年度 | 2017年度後期 |
| 時間割番号 | 24104 |
| 科目名 | 生活の理解 |
| 教員名 | 善野　八千子 |

※レーダーチャートの平均は4段階評価　4(そう思う)、3(ややそう思う)、2,（あまりそう思わない）、1（そう思わない）

| 〈※複数選択可項目〉 | | ノートをとる | 先生に質問する | 復習をする | 図書館やインターネット | 何もしていない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅳ.(15) | 授業を理解するための工夫 | 34.7% | 16.1% | 25.4% | 56.8% | 10.2% |




| | 本科目平均 | 全体平均 |
|---|---|---|
| 自身の受講姿勢 Ⅰ.(1)～(3) | 3.61 | 3.36 |
| 講義内容・方法 Ⅱ.(4)～(13) | 3.42 | 3.30 |
| 総合的満足度 Ⅲ.(14) | 3.60 | 3.41 |

①授業計画の達成度について

学習指導要領と教科用図書を活用した授業は、達成度に反映できた。特に、低学年の設定科目として、幼児期との接続を強調した。さらに、中・高学年の社会科・理科、総合的な学習への発展などへの連続性を系統的に見ることも重視した。学生は、意欲的で話し合い活動は十分に取り入れた。その中でも私語対策など必要としない状況であった。一層、教師の資質向上に資する幼小接続のスペシャリスト育成のための工夫をしていく。テキスト及び児童用教科書・学習指導要領の活用を必然にしていく工夫は、達成度を高めるために一層充実させていく。

②授業の進め方について

授業構成は、毎回学生が「本時のねらいと学習内容」について、全体に周知させた。復習については、全会のリフレクションシートを活用して評価の高いものを例示した。予習課題を活用して、担当グループに発表させてプレゼン力も高めた。毎回にテーマに応じた体験活動は、本学の自然や施設を活用したフィールドワークも多く取り入れた。特に、体験を重視した科目の特性から室外での活動事例も多く紹介し、制作活動なども課外で時間を要した。受講者の135人という多数も生かすことを念頭に、チーム活動も有効に機能させた。また、次年度の「生活科指導法」での実践に連続させる科目の流れを確立させた。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

理論の学修及びその発表など個々の理解を深めることと連動した体験活動を重視させたことは効果的であった。また、「図書館やインターネットの活用」が授業を理解するための工夫として高い数値を示しているように、今後も学習指導要領の理解を深めながら新しい子供理解につなげるよう深めていきたい。課題となる「復習による学習の定着」を意識して、学びのサイクルが好循環して力となるように改善していきたい。

奈良学園大学